



面屋 敦子さん

島出身で、祖母が被爆者なので。だから小さい頃からどちらの祖母の家へ行っても、原爆の話聞いて育ちました。私もベトナムへ行っただけですが、ツイズン病院を訪問した時、ホルマリシヨックを受けた。枯れ葉剤の被害ですね。広島は被爆者もお亡くなりになった方が多く、「生きている者が平和運動をがんばらなアカンな」と感じていたので、ちょっと怖かったけど、ニューヨークに行くことにしました。

平和への思いを胸に、ニューヨークでは、どのようなことを

司会 それぞれ平和への思いを胸にはるばるニューヨークまで行かれたわけですが、現地ではどのようなことをされたのですか？

みんな結構協力的で気軽にOK、OKと

福井依智子 着いたのが夜だったので翌朝、セントラルパークへ。早速公園で核兵器廃絶の署名集めをしました。英語の横断幕を掲げて折り鶴やステッカーなどを持って。英語しゃべれないので、「これは核兵器をなくす署名です。ご協力を」と英語で書いたポスターを指差して訴えました。署名してくれた人にはお礼に折り鶴を渡すのですが、一人が「ジャババズ、ピースバード」(日本の平和の鳥)とカタコトで。その横でもう一人がバタバタと鳥が羽ばたくまねをして(笑)。

福井早苗 みんな結構協力的でした。気軽にOK、OKと。折り鶴は喜んでくれました。福井依智子 本当はもつと英語がしゃべれたら、「核兵器廃絶のためには何をすべきか」「アメリカが大量の核を持っていることをどう思うのか」など、アメリカ人がどう考えているか、議論したかったです。ピースバードだけでは(笑)残念でした。

「いのちのスローガン」の英訳で握手を求められ

面屋 「アイアグリー(賛成し

ます」と言ってくれた人がいました。署名はしてくれませんが、何で？と思ったのでしつこく迫りましたが、英語が話せずわかりませんでした。私たちが宗教関係の人間だと思った人もいて、ピラをくれた人もいました。アメリカは宗教関係者が多いのを実感しました。

署名の内容には同意していても、アメリカは移民国家なので「私、アメリカ人じゃないから署名できません」と断られることも。「いいんです。国籍は関係なく署名できます」と言いたかったのですが、英語が出てこない。後で熊谷さんが「ノープロブレム」って言えばいいんと違う？とアドバイスしてくれて、それから「ノープロブレム」を連発してました(笑)。

樋口 署名を書きかけた人が、私の顔を見て「日本人か？」と聞くので「そうです」と答えると、「やめた」と署名してくれませんか？と聞くと「パールハーバーを思い出した」と。

真珠湾攻撃があったから戦争になり、その戦争を終わらせるためには広島・長崎は仕方なかった、と教えられているアメリカ人も多いんですね。しかし核兵器は人類を何回も

という平和運動を続けておられるのです。

私たちはピシオットさんを励まし、そしてホワイトハウス前で横断幕を掲げて並びました。もちろん原爆反対と訴えましたが、今年はそれに加えて「沖縄、普天間基地ノー」と、普天間基地のポスターを掲げて叫び、そして歌いました。

道行く人から注目を浴び、マスコミはカメラで撮影してくれました。

その日の晩、教会でアメリカの草の根平和運動家たちとの交流会がありました。

交流会の最後、全員が私たちに向かって起立し、そして深々とお辞儀しました。

「アメリカの罪を謝らせてほしい」と。原爆投下の罪ですね。あの人たちは宗教家でしたが、スミソニアン博物館にエノラゲイを展示することに最後まで反対してきた人たちでした。草の根の運動は世界を確かに動かすと確信を持ちました。

参加できたのをきっかけに日本で平和サークルを

福井依智子 1万5千人もの人々が世界からやってきて、ニュー



福井 依智子さん

「沖縄、普天間基地ノー」

マスコミもカメラで撮影

樋口 私はニューヨークの後、ワシントンに行きました。ニュー

普段から「日本人は世界の動きについて意識が低い」「日本人は外へ出て表現するのが苦手」と感じて感じていたので、「なかなか日本の意識もすごいやん」と感心しました。歩いていて、他国の人と交流し、歌を歌ったりギターや着ぐるみを着た人などもいて、炎天下の中でしたが、観光バスの2階から手を振ってくれる人や、ピースサインをして「私たちも平和を願っているよ」と笑顔をくれる人もいてパワーをもらったバレードでした。福井依智子 バレードの終着地が国連前の広場でした。バレードが解散しても、被爆者の方々が原爆パネル展をされていたり、マイクを持って訴えていたりして広場は熱気に包まれていました。被爆者の体験を熱心に聞いていたアメリカの若者が、「第2次世界大戦を終わらせるために、原爆投下は仕方がなかった」と教わってきた。しかし被爆者の話を聞いたり写真を見たりして、考えが変わった」と感想を述べていました。

1ヨークは高層ビルが林立した大都会でしたが、ワシントンは青々とした緑が広がる空間に、ホワイトハウスやアメリカ議会、ペンタゴンやアーリントン墓地などがある政治の街でした。スミソニアン博物館に「エノラゲイ」(広島に原爆を落とした飛行機)が展示されているので、その見学に行くべきか、それともホワイトハウスに行くべきか、迷いましたが、アンライトさん(元陸軍大佐・外交官)のすすめでホワイトハウスを選びました。ホワイトハウス前に小さなピニールシートでできた小屋があって、そこにピシオットさんという女性が座り込んでいます。彼女はスペインからやってきてここにもう30年以上も座り込んでいるのです。アメリカが核を廃絶するまで、ここで座り込む

死滅させるのですから、互いの責任を追究する前に、核は廃絶すべきであることをもっと訴えたかったですね。

それで母親大会で採択された「いのちのスローガン」を英訳したもを持って行ったんです。読んでくれた人からは握手を求められて、涙が出そうになりました。ニューヨーク市民の青い目がとても印象的でした。

平和バレードに参加し観光バスの2階から手を振って

熊谷 平和バレードにも参加しました。世界から集まった1万5千人の大バレードですが、意外と日本人が多かったのです。



「平和の鯉のぼり」で道行く人にアピール

ヨークで大バレードをしたわけですから、翌日のアメリカの新聞には、そのことがでかかと掲載されるだろうと期待してました。でもニューヨークタムズやワシントンポストなど大新聞は、全く無視。ちょうどその前日にあった、自動車爆発事件を「テロだテロだ」と大騒ぎしてました。沖縄の集会などをほとんど報道せずに、芸能人の麻薬や離婚ばかり報道する日本と似ているな、と感じました。

面屋 私の着ているTシャツは、アメリカの若者たちが作ったんです。5年前のNPT再検討会議に参加して、核兵器をなくそうと5年間も活動を続けてきたグループです。私もこの会議に参加できたのをきっかけにして、日本で平和サークルを作って行こうと思っています。

司会 私たち一人一人がでできることは小さいかもしれませんが、みんなが集まれば大きな運動になりますね。唯一の被爆国として、本来なら日本が核兵器廃絶の先頭に立たないといけません。ニューヨークで学ばれたことを、ぜひこの吹田で生かして平和運動を大いに盛り上げてください。本日はありがとうございました。